



## 平成31年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成30年11月14日

上場会社名 株式会社エムアップ 上場取引所 東  
 コード番号 3661 URL http://www.m-up.com/  
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 美藤宏一郎  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 総務経理部長 (氏名) 藤池 季樹 TEL 03-5467-7125  
 四半期報告書提出予定日 平成30年11月14日 配当支払開始予定日 -  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：有 機関投資家・アナリスト向け

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成31年3月期第2四半期の連結業績（平成30年4月1日～平成30年9月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第2四半期	2,026	13.0	147	△6.6	173	△2.8	△2,524	△96.9
30年3月期第2四半期	1,793	9.4	158	△15.9	178	△7.0	105	△11.5

(注) 包括利益 31年3月期第2四半期 △2,519百万円 (-%) 30年3月期第2四半期 123百万円 (35.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第2四半期	△337.11	-
30年3月期第2四半期	14.16	14.10

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
31年3月期第2四半期	8,832	4,101	45.9	449.07
30年3月期	3,041	2,130	68.9	280.27

(参考) 自己資本 31年3月期第2四半期 4,052百万円 30年3月期 2,096百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期	-	0.00	-	22.00	22.00
31年3月期	-	0.00	-	-	-
31年3月期(予想)	-	-	-	22.00	22.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 平成31年3月期の連結業績予想（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,300	171.1	325	105.2	284	65.4	△2,300	△2,285.8	△255.55

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※当社は、予算編成を通期ベースで行っており、業績の進捗管理およびその評価は通期でのみ実施しているため、第2四半期（累計）期間における業績予想については、開示しておりません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有  
新規 1社 （社名）EMTG株式会社、除外 1社 （社名）－

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	31年3月期2Q	9,024,897株	30年3月期	7,480,300株
② 期末自己株式数	31年3月期2Q	118株	30年3月期	86株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	31年3月期2Q	7,489,732株	30年3月期2Q	7,466,441株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。  
業績予想の前提となる条件等については、四半期決算短信（添付資料）4ページ「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(会計方針の変更)	10
(追加情報)	10
(セグメント情報等)	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における我が国の経済は、雇用情勢や所得環境の着実な改善に支えられ個人消費も持ち直しており、緩やかな回復を見せております。今後についてもこの基調が続くと期待されるものの、消費者マインドが弱含んでいることや、通商問題及び金融資本市場の変動など海外経済の不確実性もあり、先行きには依然として不透明感も残っております。

当社グループを取り巻くインターネット関連市場につきましては、インターネットが高速化、モバイル化したことにより様々なコンテンツが登場するなど、その用途は多様化しており、今後においても安定的な成長と拡大が期待されております。

平成29年における情報通信機器の保有率は、スマートフォンが75.1%（前年同期比3.3ポイント増）、タブレット端末が36.4%（前年同期比2.0ポイント増）となり、普及は一巡し安定成長へと移行しております。（出所：総務省「平成30年版情報通信白書」）。

また、スマートフォンやタブレット端末の普及と利用増加に伴い、モバイルコンテンツの市場規模は、平成29年には全体で2兆1,109億円（前年同期比12.5%増）となり、高い伸び率で拡大が続いております（出所：一般社団法人モバイル・コンテンツ・フォーラム）。

音楽やアーティスト関連の市場動向といたしましては、平成30年上半年（1月から6月まで）における音楽ソフト（オーディオレコード及び音楽ビデオ合計）の生産金額は117,358百万円（前年同期比0.7%増）、コンサートの市場規模は143,812百万円（前年同期比10.9%増）といずれも拡大しており、音楽の有料聴取層の増加によって堅調に推移しております（出所：一般社団法人日本レコード協会、及び一般社団法人コンサートプロモーターズ協会）。

このような外部環境の中、当社グループでは、アーティストやタレント、声優、アニメまでの幅広いジャンルを対象に、ファンクラブサイトの運営を中心として、キャラクター、スタンプ、音楽、電子書籍といった多岐にわたるデジタルコンテンツの配信や、eコマースに至るまで複合的な事業展開をしております。優位性を持つコンテンツを活用し、グループ全体でのシナジー効果を発揮させることによって、事業基盤の拡大と多様化を進めてまいりました。また、今後の当社グループの新たな成長へ向けた投資として、当社と同様にファンクラブサイト/ファンサイトを運営し、電子チケットサービスも手がけるEMTG株式会社を完全子会社化いたしました。今後は、両社の得意分野や経営資源を相互活用することで業容拡大と事業効率化による収益力の向上を見込んでおります。

なお、EMTG株式会社につきましては、平成30年6月29日にその発行済み株式の一部を取得した結果、平成30年6月30日より持分法適用会社に、平成30年9月28日にその他の同社発行済株式の全てを当社株式に株式交換したことにより、平成30年9月30日（みなし取得日）に完全子会社となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は2,026百万円（前年同期比13.0%増）、営業利益は147百万円（前年同期比6.6%減）、経常利益は173百万円（前年同期比2.8%減）となりました。EMTG株式会社の完全子会社化の過程で、合意時点から交換時点において当社株価が上昇したことに伴い、交換時における株価をもとに算出された取得総額が当初想定した取得総額を超過することとなり、当該差額2,664百万円を減損損失として特別損失に計上することとなり、その結果、親会社株主に帰属する四半期純損失は2,524百万円となりました。

セグメントごとの概要は、以下のとおりであります。

①携帯コンテンツ配信事業

携帯コンテンツ配信事業につきましては、アーティストや声優、タレントのファンクラブ、ファンメールサイトの新規開設を進めるとともに、他社からのサイト運営の移管など有料会員の獲得に取り組んでまいりました。また、既存サイトやサービスのアプリ化や、これまでの月額制に加え年会費制ファンクラブを導入するなど、多様化する利用者ニーズに対応することで新たな需要の掘り起こしも図ってまいりました。

この他、テレビ局が提供するアニメ動画見放題サービスやタテ型アニメ視聴アプリなど動画配信分野にも引き続き注力し、新規事業へ向けた開発ノウハウ、経験の蓄積も進めてまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における携帯コンテンツ配信事業の売上高は1,371百万円(前年同期比4.7%減)、セグメント利益は332百万円(前年同期比15.5%減)となりました。

②PCコンテンツ配信事業

PCコンテンツ配信事業につきましては、アーティスト及びタレント等のPC向け有料ファンクラブサイトの運営を行い、年会費制のファンサイトなども新たに展開してまいりました。また、将来の携帯コンテンツ配信事業での有料化を見据え、アーティストや俳優、声優などのオフィシャルサイトの受託制作なども実施してまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間におけるPCコンテンツ配信事業の売上高は101百万円(前年同期比31.2%増)、セグメント損失は5百万円(前年同期は6百万円の損失)となりました。

③eコマース事業

eコマース事業につきましては、CD、DVD及びブルーレイといった音楽映像商品と、それに関連するアーティストグッズを中心に、大手レコード会社との提携によるレコード会社の公式販売サイトの運営管理と当社による直販の両面から事業を展開し、当第2四半期累計期間では音楽映像商品の販売が堅調に推移いたしました。

また、人気アニメ「エヴァンゲリオン」の公式オンラインストアの制作、運営を受託し、サイトリニューアルを行いました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間におけるeコマース事業の売上高は259百万円(前年同期比194.8%増)、セグメント利益は37百万円(前年同期比409.8%増)となりました。

④アプリ事業

アプリ事業は、主にアイドルグループとのコラボレーション公式ファンアプリなど、スマートフォンを通じたアプリ配信を行う事業です。当第2四半期連結累計期間におきましては、機能追加や利便性の向上を目的とした大型アップデートを行うとともに、他アプリ等とのコラボキャンペーンなど、アプリの利用拡大を図るべく各種施策を講じてまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間におけるアプリ事業の売上高は124百万円(前年同期比8.1%増)となりました。売上高は増加しているものの利益の確保には至らず、セグメント損失は16百万円(前年同期は26百万円の損失)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び株主資本の状況

(資産の部)

当第2四半期連結会計期間末の総資産は8,832百万円(前連結会計年度末比190.3%増)となりました。

流動資産は6,217百万円(同158.1%増)となりました。主な内訳は現金及び預金4,420百万円(同214.6%増)、売掛金1,173百万円(同101.9%増)となっております。

固定資産は2,614百万円(同313.2%増)となりました。主な内訳は有形固定資産445百万円(同72.6%増)、のれん1,632百万円(同112,669.4%増)となっております。

(負債の部)

当第2四半期連結会計期間末の流動負債は4,705百万円(同431.2%増)となりました。主な内訳は買掛金2,240百万円(同449.8%増)であります。

固定負債は25百万円(同1.7%増)となりました。

(純資産の部)

当第2四半期連結会計期間末の純資産の合計は4,101百万円(同92.5%増)となりました。主な内訳は資本金252百万円(同1.5%増)、資本剰余金4,951百万円(同1,723.3%増)、利益剰余金△1,129百万円(同170.5%減)であります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は4,420百万円(前連結会計年度比3,015百万円増)となりました。

各キャッシュ・フローの状況は、以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは290百万円となりました。

主な内訳は税金等調整前四半期純損失2,458百万円、減損損失2,664百万円であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは2,784百万円であり、支出の主な内訳は連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入2,943百万円であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは△60百万円であり、支出の主な内訳は配当金の支払額163百万円、および非支配株主の払込みによる収入97百万円によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後における我が国の経済は、雇用及び所得環境の改善が続くなかで、個人消費も持ち直すなど、回復基調が続くと期待される一方で、物価の上昇テンポは鈍化しつつあり、消費者マインドも弱含むなど、先行きには依然として不透明感が残っております。

当社の属するインターネット関連市場につきましては、スマートフォンの利用が定着し、それに伴ってスマートフォン向けコンテンツサービスの市場が大きく拡大しており、モバイルビジネスを取り巻く環境は日々変化しております。

こうした事業環境の中、当社は技術及び市場動向の影響を受けにくい、ファンクラブサイトを事業の軸に据え、新規アーティスト等の獲得とそのファンクラブサイトの開設、既存サイトへのファンメールやWEBラジオといった新サービスの追加によって、新規有料会員の獲得と既存会員の維持、拡大を進めております。

また、スマートフォン向けの動画など新たな事業領域の開拓も進めております。加えて、子会社を通じた他社との事業提携、並びにVRなど新規事業の開発にも注力しております。

新規事業分野につきましては、技術革新やサービスの流行と陳腐化の流れが早く、それらを的確に予測することは困難であり、かつこれまで当社が手掛けてこなかった事業領域でもあることから、不確定な要素も多く含まれます。そのため、新規事業に関しましては事業の立ち上がりの状況などを見極め、業績予想は適宜見直していく方針です。

今後の当社グループの新たな成長へ向けた投資として、当社と同様にファンクラブサイト/ファンサイト運営の大手企業であり、電子チケットサービスなど当社にはない新規サービスも手がける、EMTG株式会社を完全子会社化いたしました。今後は、両社のリソースやシステムの共有など経営資源を相互活用することで、業務の効率化と収益性の向上を見込んでおります。

電子チケットサービスは、これから大きな市場拡大が見込まれる将来性の高い事業領域であり、当社の運営するファンクラブサイトや、今後予定するVRライブ事業への電子チケットサービスの導入によって、当社グループの新たな事業の柱となることが期待されます。同時に、EMTG株式会社に対しても、当社のファンメール配信やコンテンツ制作などを提供することで、グループ全体としての事業基盤や収益の拡大、多角化を進めてまいります。

なお、EMTG株式会社につきましては、株式取得と株式交換を用いた段階取得を実施したため、平成30年6月30日より持分法適用会社に、平成30年9月28日にその他の同社発行済株式の全てを当社株式に株式交換したことにより、平成30年9月30日(みなし取得日)に完全子会社となります。このため、連結業績予想には、第3四半期以降のEMTG株式会社の業績見通しが反映されております。また、EMTG株式会において資産計上されていたソフトウェアを、当社の基準にあわせ費用処理するため、平成31年3月期は一時的な利益の減少を見込んでおります。

費用面では、販売に比例し増減するロイヤリティ等や、採用の強化に伴う人材関連費用の増加、子会社における新規事業への先行投資などを見込んでおります。

また、EMTG株式会社の完全子会社化の過程において、合意時点における交換比率の算定に採用した当社株価が交換時点において上昇したことで、当初の想定した取得総額と交換時における株価をもとに算出された取得総額との差額を特別損失として計上いたします。なお、当該特別損失につきましては、子会社化の過程において発生した会計上の損失であり、当社グループからの資金の流出はなく、来期以降は発生いたしません。

以上により、今期(平成31年3月期)の見通しについては、売上高6,300百万円(前年同期比71.1%増)、営業利益325百万円(前年同期比5.2%増)、経常利益284百万円(前年同期比34.6%減)、親会社株主に帰属する当期純損失2,300百万円を見込んでおります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,405,348	4,420,920
売掛金	581,275	1,173,690
商品	23,185	27,699
仕掛品	1,003	4,594
その他	399,002	591,550
貸倒引当金	△660	△805
流動資産合計	2,409,154	6,217,650
固定資産		
有形固定資産	258,198	445,559
無形固定資産		
のれん	1,447	1,632,354
その他	36,560	45,449
無形固定資産合計	38,008	1,677,803
投資その他の資産		
その他	416,904	569,748
貸倒引当金	△80,274	△78,441
投資その他の資産合計	336,629	491,307
固定資産合計	632,836	2,614,670
資産合計	3,041,990	8,832,320
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	407,507	2,240,374
未払金	87,910	1,216,477
未払法人税等	125,281	157,052
賞与引当金	13,849	11,651
役員賞与引当金	30,000	15,000
その他	221,249	1,064,843
流動負債合計	885,798	4,705,400
固定負債		
資産除去債務	19,165	19,441
その他	6,179	6,342
固定負債合計	25,344	25,784
負債合計	911,143	4,731,184
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	248,477	252,287
資本剰余金	271,582	4,951,893
利益剰余金	1,600,915	△1,129,287
自己株式	△48	△134
株主資本合計	2,120,927	4,074,759
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△24,412	△22,036
その他の包括利益累計額合計	△24,412	△22,036
新株予約権	14,707	12,313
非支配株主持分	19,624	36,100
純資産合計	2,130,846	4,101,136
負債純資産合計	3,041,990	8,832,320



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
売上高	1,793,282	2,026,701
売上原価	1,209,974	1,424,689
売上総利益	583,308	602,012
販売費及び一般管理費	425,191	454,301
営業利益	158,116	147,711
営業外収益		
投資有価証券売却益	15,488	1,396
為替差益	67	2,204
貸倒引当金戻入額	1,053	1,832
受取賃貸料	2,427	2,551
持分法による投資利益	-	17,760
その他	1,490	226
営業外収益合計	20,527	25,970
経常利益	178,644	173,682
特別利益		
新株予約権戻入益	756	-
固定資産売却益	-	506
段階取得に係る差益	-	39,681
特別利益合計	756	40,188
特別損失		
固定資産売却損	-	157
減損損失	-	2,664,745
投資有価証券評価損	-	7,500
特別損失合計	-	2,672,402
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	179,400	△2,458,531
法人税、住民税及び事業税	67,078	75,357
法人税等調整額	7,005	△12,314
法人税等合計	74,084	63,043
四半期純利益又は四半期純損失(△)	105,315	△2,521,574
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△443	3,263
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	105,759	△2,524,837

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	105,315	△2,521,574
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	17,922	2,375
その他の包括利益合計	17,922	2,375
四半期包括利益	123,238	△2,519,198
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	123,682	△2,522,461
非支配株主に係る四半期包括利益	△443	3,263

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	179,400	△2,458,531
減価償却費	19,126	17,473
のれん償却額	8,684	1,447
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△1,203	△51
賞与引当金の増減額(△は減少)	△6,459	△6,919
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△15,000	△15,000
投資有価証券売却損益(△は益)	△15,488	△1,396
段階取得に係る差損益(△は益)	-	△39,681
持分法による投資損益(△は益)	-	△17,760
投資有価証券評価損益(△は益)	-	7,500
新株予約権戻入益	△756	-
減損損失	-	2,664,745
売上債権の増減額(△は増加)	224,878	41,810
前渡金の増減額(△は増加)	△77	19,274
仕入債務の増減額(△は減少)	△112,091	△5,625
未払金の増減額(△は減少)	6,241	△4,587
その他	52,207	204,575
小計	339,462	407,271
利息の受取額	65	75
法人税等の支払額	△83,031	△117,138
営業活動によるキャッシュ・フロー	256,497	290,208
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△13,592	△161,167
無形固定資産の取得による支出	△7,500	△16,700
投資有価証券の取得による支出	△104,608	△25,000
投資有価証券の売却による収入	123,533	31,267
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	-	2,943,273
その他	△22,242	12,377
投資活動によるキャッシュ・フロー	△24,410	2,784,050
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
配当金の支払額	△163,462	△163,429
非支配株主からの払込みによる収入	-	97,400
新株予約権の行使による株式の発行による収入	3,772	5,225
その他	91	△86
財務活動によるキャッシュ・フロー	△159,598	△60,890
現金及び現金同等物に係る換算差額	67	2,204
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	72,555	3,015,572
現金及び現金同等物の期首残高	1,172,650	1,405,348
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,245,205	4,420,920

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成30年9月28日を効力発生日として、当社を株式交換完全親会社とし、EMTG株式会社を完全子会社とする株式交換を実施いたしました。この結果、資本剰余金が4,551,514千円増加しております。

(会計方針の変更)

(従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与する取引に関する取扱いの適用)

「従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与する取引に関する取扱い」(実務対応報告第36号平成30年1月12日。以下「実務対応報告第36号」という。)等を平成30年4月1日以降適用し、従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与する取引については、「ストック・オプション等に関する会計基準」(企業会計基準第8号平成17年12月27日)等に準拠した会計処理を行うことといたしました。

ただし、実務対応報告第36号の適用については、実務対応報告第36号第10項(3)に定める経過的な取扱いに従っており、実務対応報告第36号の適用日より前に従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与した取引については、従来採用していた会計処理を継続しております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益 計算書計 上額 (注)3
	携帯 コンテン ツ 配信事業	PC コンテン ツ 配信事業	eコマー ス 事業	アプリ事 業	計				
売上高									
外部顧 客への 売上高	1,439,433	77,299	87,948	114,923	1,719,604	73,677	1,793,282	-	1,793,282
セグメン ト間の 内部 売上高 又は振 替高	-	-	-	-	-	2,464	2,464	△2,464	-
計	1,439,433	77,299	87,948	114,923	1,719,604	76,142	1,795,746	△2,464	1,793,282
セグメン ト利益又 は損失 (△)	393,207	△6,910	7,366	△26,324	367,339	△24,958	342,380	△184,264	158,116

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、子会社の事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△184,264千円には、セグメント間取引消去△2,464千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△181,799千円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益 計算書計 上額 (注)3
	携帯 コンテン ツ 配信事業	PC コンテン ツ 配信事業	eコマー ス 事業	アプリ事 業	計				
売上高									
外部顧 客への 売上高	1,371,835	101,430	259,240	124,248	1,856,755	169,946	2,026,701	-	2,026,701
セグメン ト間の 内部 売上高 又は振 替高	-	-	-	10,791	10,791	7,085	17,877	△17,877	-
計	1,371,835	101,430	259,240	135,040	1,867,547	177,031	2,044,578	△17,877	2,026,701
セグメン ト利益又 は損失 (△)	332,232	△5,759	37,552	△16,454	347,569	△89,075	258,493	△110,782	147,711

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、子会社の事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△110,782千円には、セグメント間取引消去830千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△111,612千円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

EMTG株式会社について100%株式を取得、子会社化したことにより、連結の範囲に含めております。取得原価総額と企業結合日時点でのEMTG株式会社の純資産との差額4,297,099千円をのれんとして計上しましたが、EMTG株式価値算定における時価総額を超過する部分2,664,745千円については減損損失として、特別損失に計上いたしました。